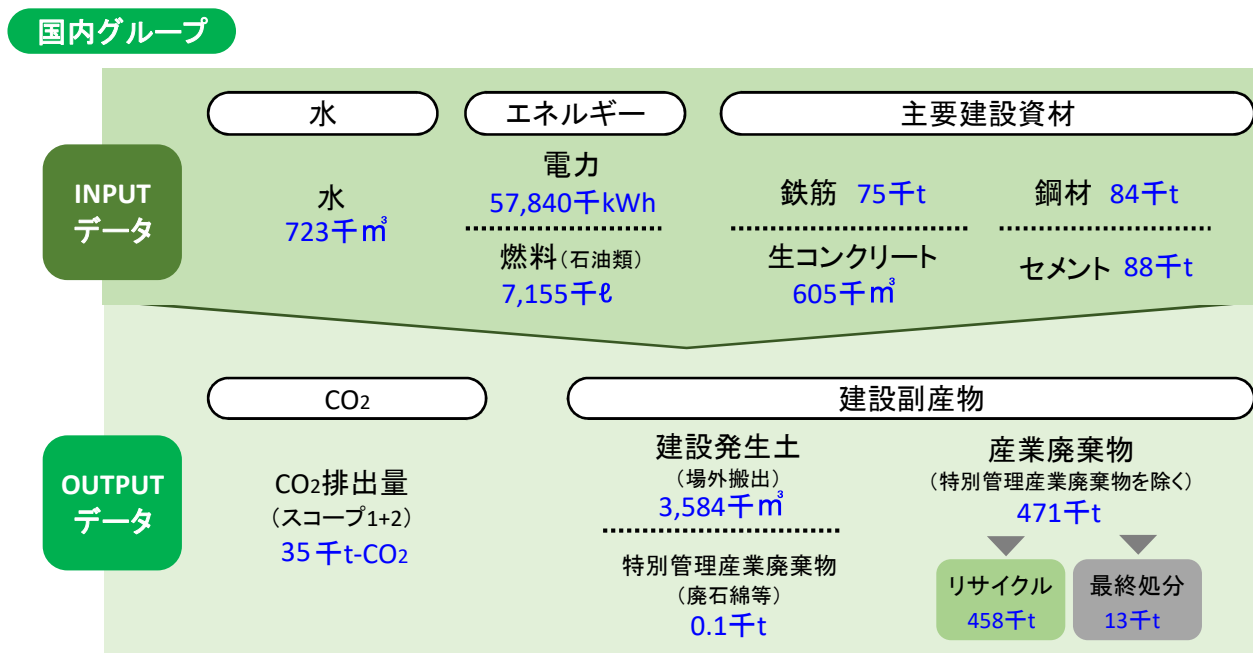


■ マテリアルバランス

< 国内グループの事業活動における環境負荷データ >

下図は、当社国内グループの2022年4月～2023年3月の国内事業活動に伴う環境負荷を、マテリアルフローとして、電力や水、建設資材などの資源消費(INPUT)と、CO₂や廃棄物などの排出(OUTPUT)に分けて示しています。



※施工のCO₂排出量および水使用量はサンプリング調査による

※国内グループの範囲: 西松建設(土木/建築の施工活動、オフィス等施工以外の活動、開発・不動産事業)および連結子会社(西松地所、サイテックファーム)

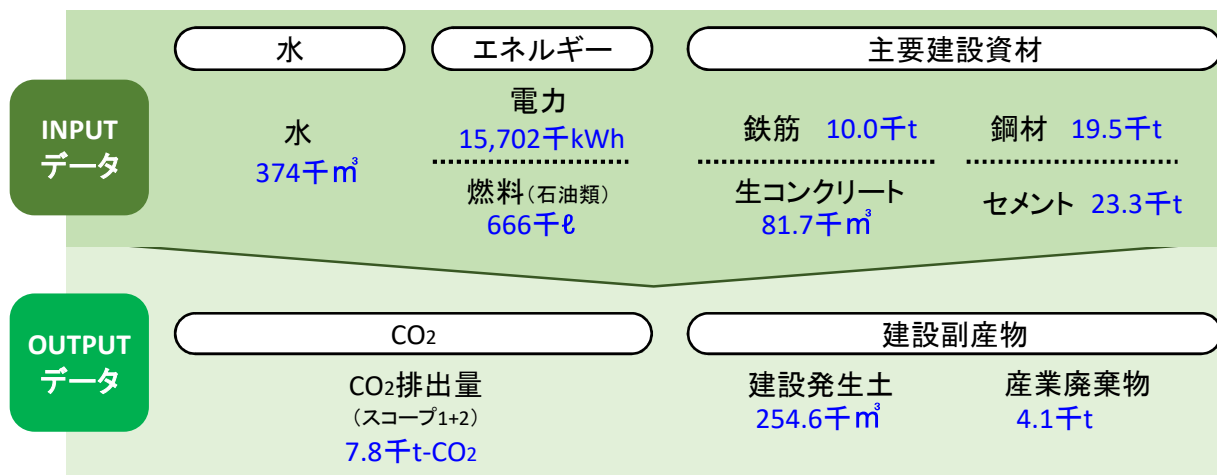
※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による

■ マテリアルバランス

< 国際事業における環境負荷データ >

下図は、当社の2022年4月～2023年3月の国際事業における環境負荷を、電力や水、建設資材などの資源消費 (INPUT) と、CO₂や廃棄物などの排出 (OUTPUT) とに分けて示しています。集計対象は、香港・フィリピン・タイ・シンガポール・ベトナムの施工現場と支店・営業所です。

香港、フィリピン、タイ、シンガポール、ベトナム



※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による

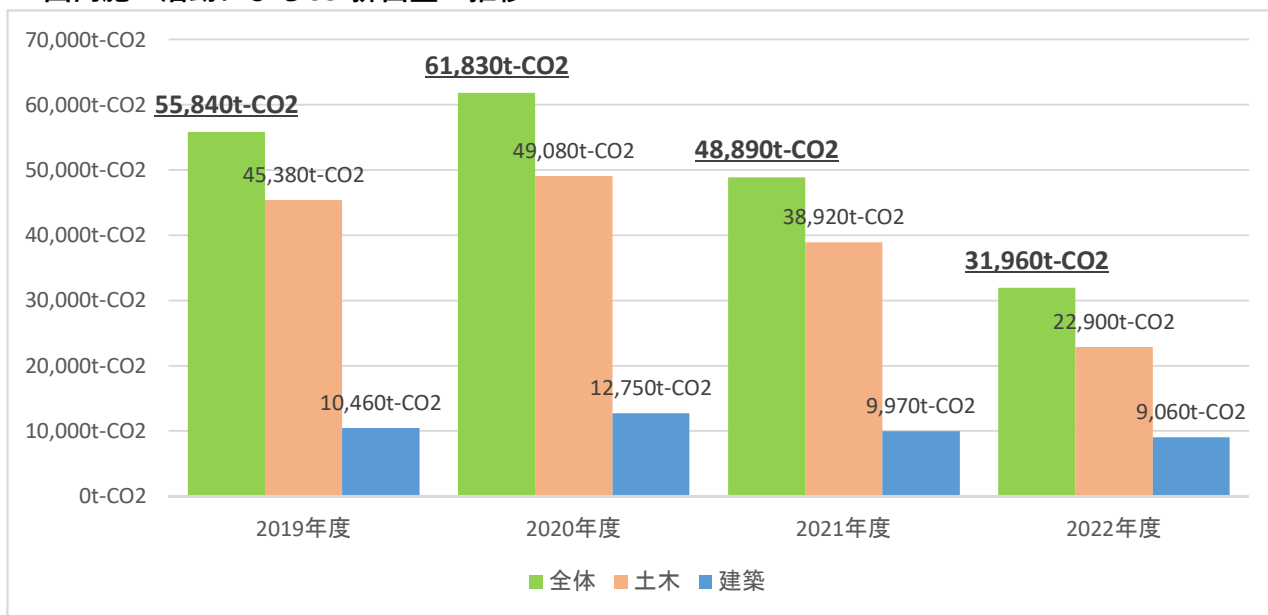
■国内施工活動におけるCO₂排出量〈1〉

国内建設事業を対象としたスコープ1、2の削減計画『ZERO30ロードマップ2021』に基づき、CO₂削減活動を展開してきました。『ZERO30ロードマップ2021』におけるCO₂排出量の対象となるエネルギーは、施工活動では「電力」「建設機械で使用する燃料（軽油）」「ガソリン」「重油」「灯油」の5種類となります。

2022年4月～2023年3月のCO₂排出実績は、温対法ベースで31,960t-CO₂となりました。2021年度実績48,890t-CO₂に対して約17千t-CO₂の削減となります。これは、『ZERO30ロードマップ2021』における主要施策である再エネ電力の導入が大きな要因と考えられます。

なお、当社は2023年6月に対象範囲を当社グループ全般に広げた『ZERO30ロードマップ2023』を策定しています。

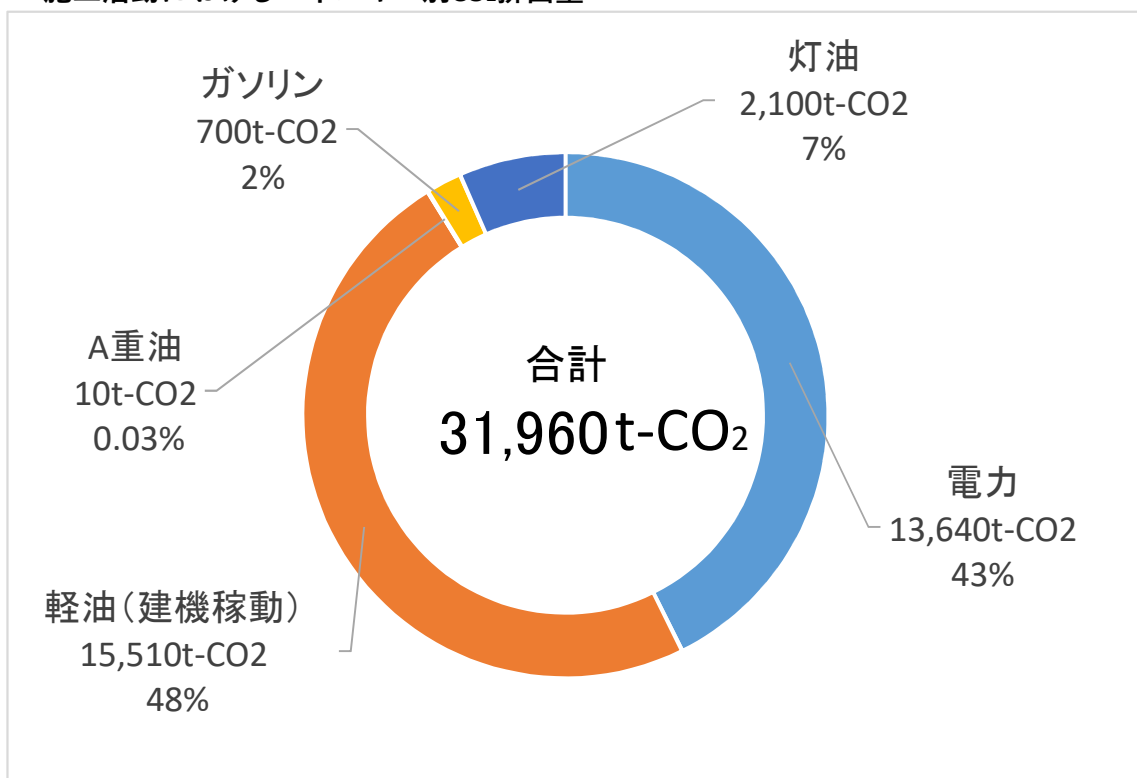
<国内施工活動によるCO₂排出量の推移>



※施工のCO₂排出量はサンプリング調査による(下図、同様)

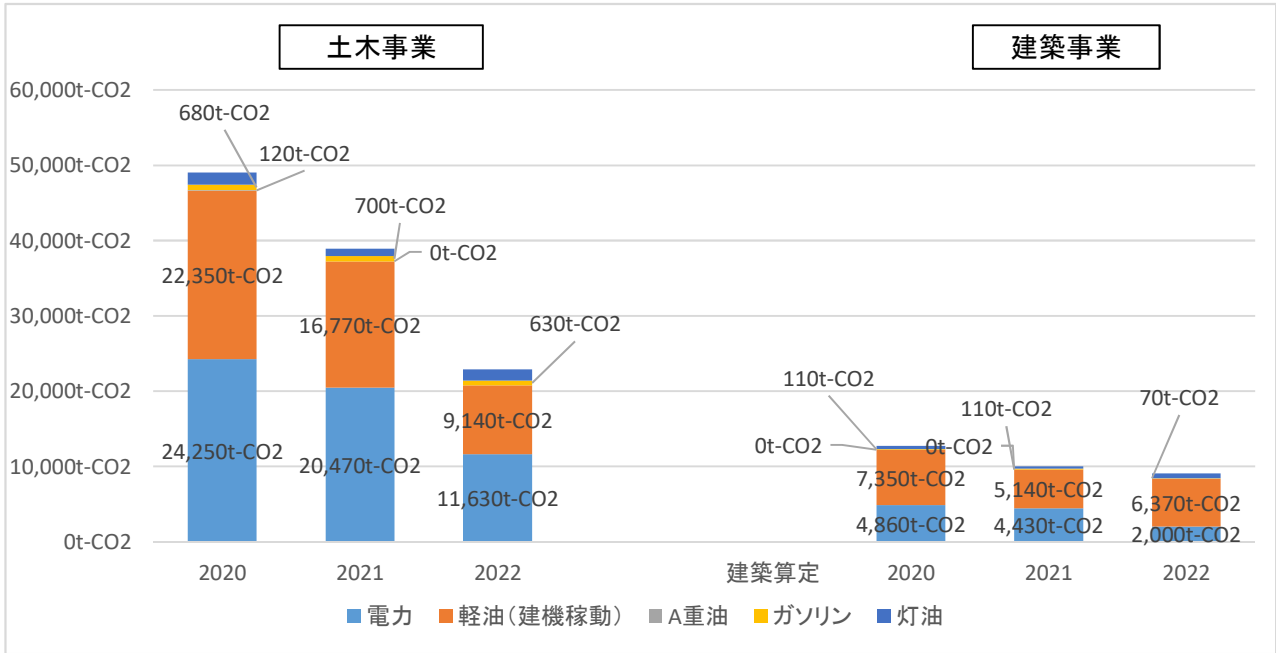
※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による(下図、同様)

<施工活動におけるエネルギー別CO₂排出量>



■国内施工活動におけるCO₂排出量〈2〉

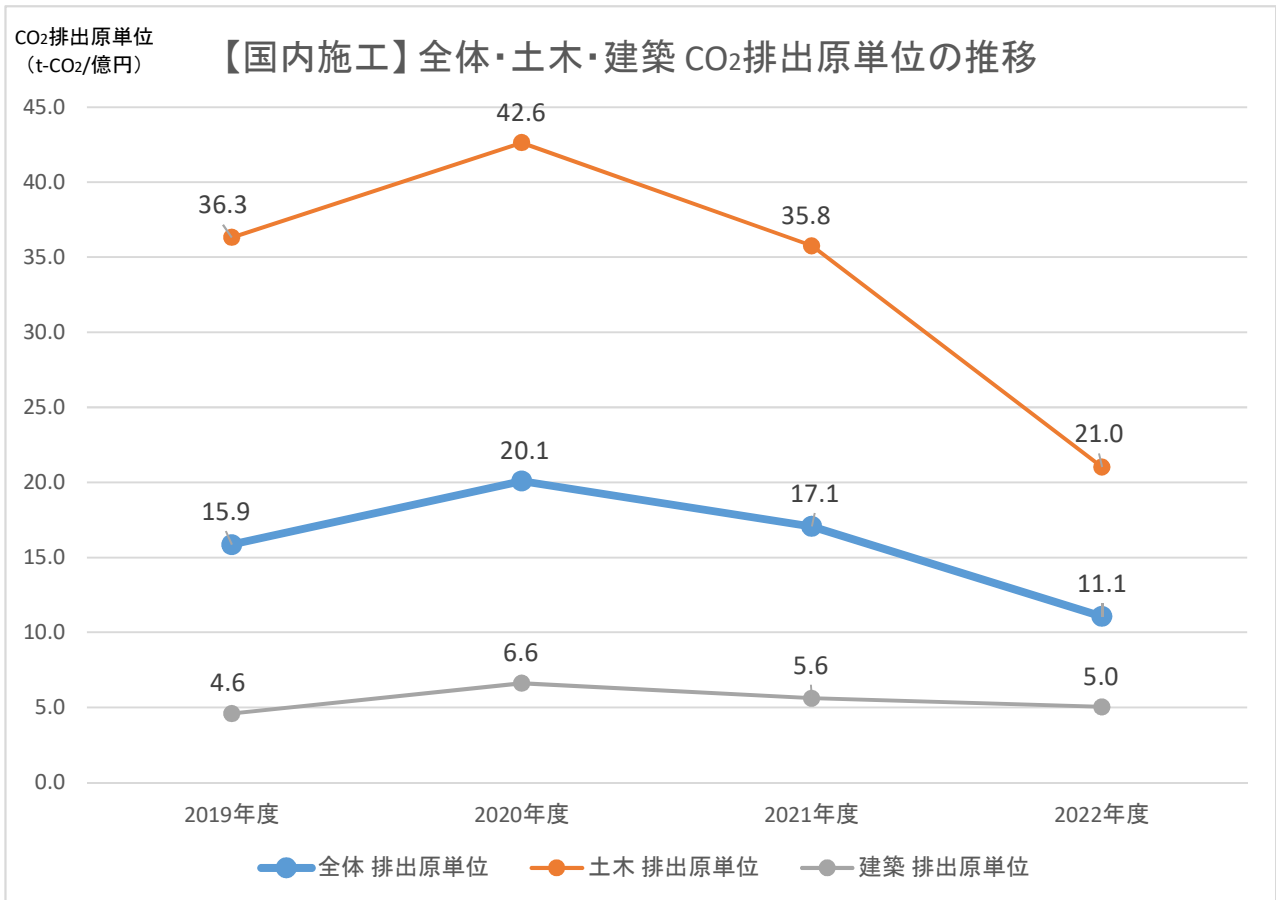
＜土木別エネルギー別CO₂排出量推移＞



※施工のCO₂排出量はサンプリング調査による(下図、同様)

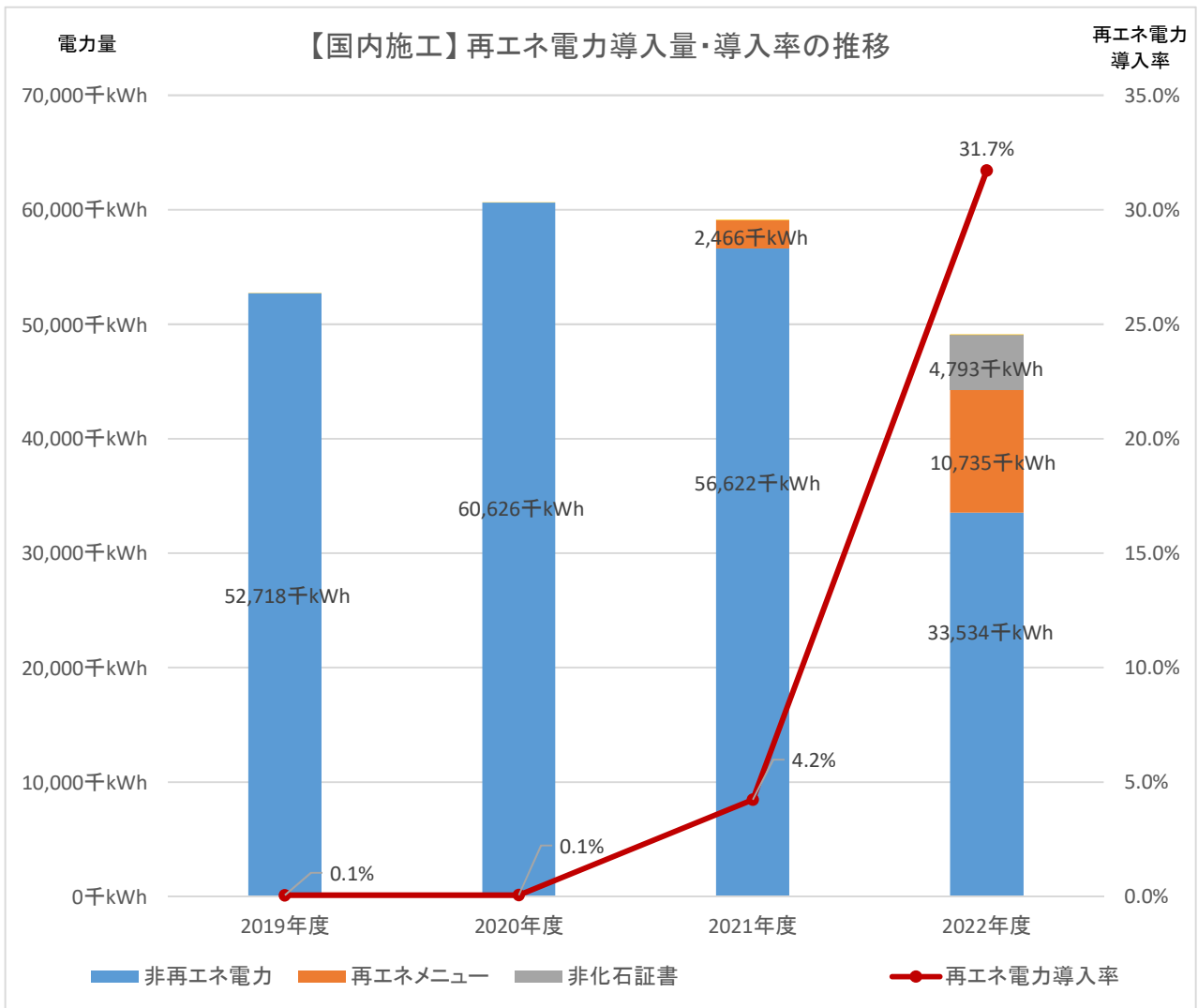
※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による(下図、同様)

＜参考：2022年度までのCO₂排出排出原単位の推移＞



国内施工活動におけるCO₂排出量 <3>

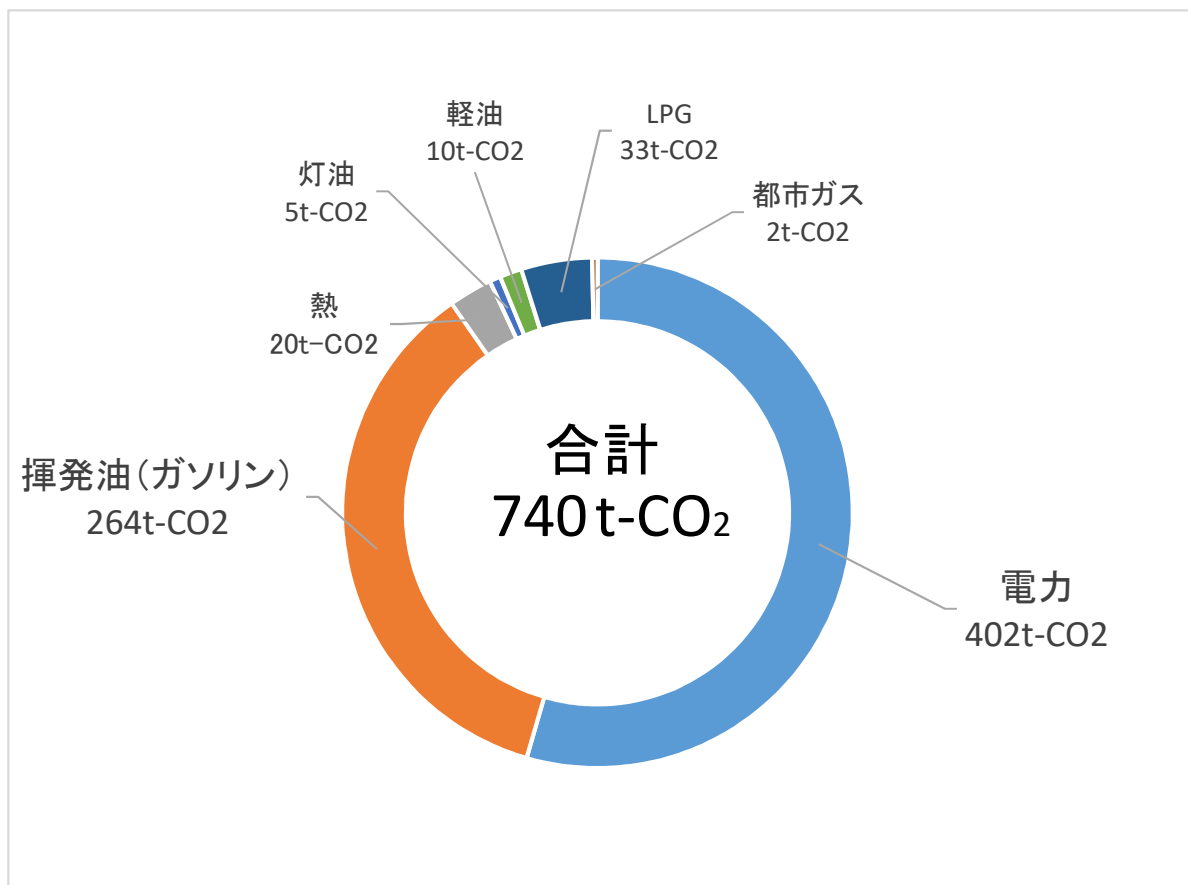
<参考：2022年度までの再エネ電力導入量・再エネ電力導入率の推移>



■国内施工以外(オフィス等)におけるCO₂排出量 <1>

2022年4月～2023年3月の国内施工以外のオフィス等におけるCO₂排出量は740 t-CO₂となりました。社屋や営業所等における省エネ活動やLED照明導入などがありますが、特に本支社屋の再エネ電力化が大きく進んだことにより、電力によるCO₂の排出量が大きく削減されました。

<2022年 施工以外（オフィス等）における発生起源別CO₂排出量>



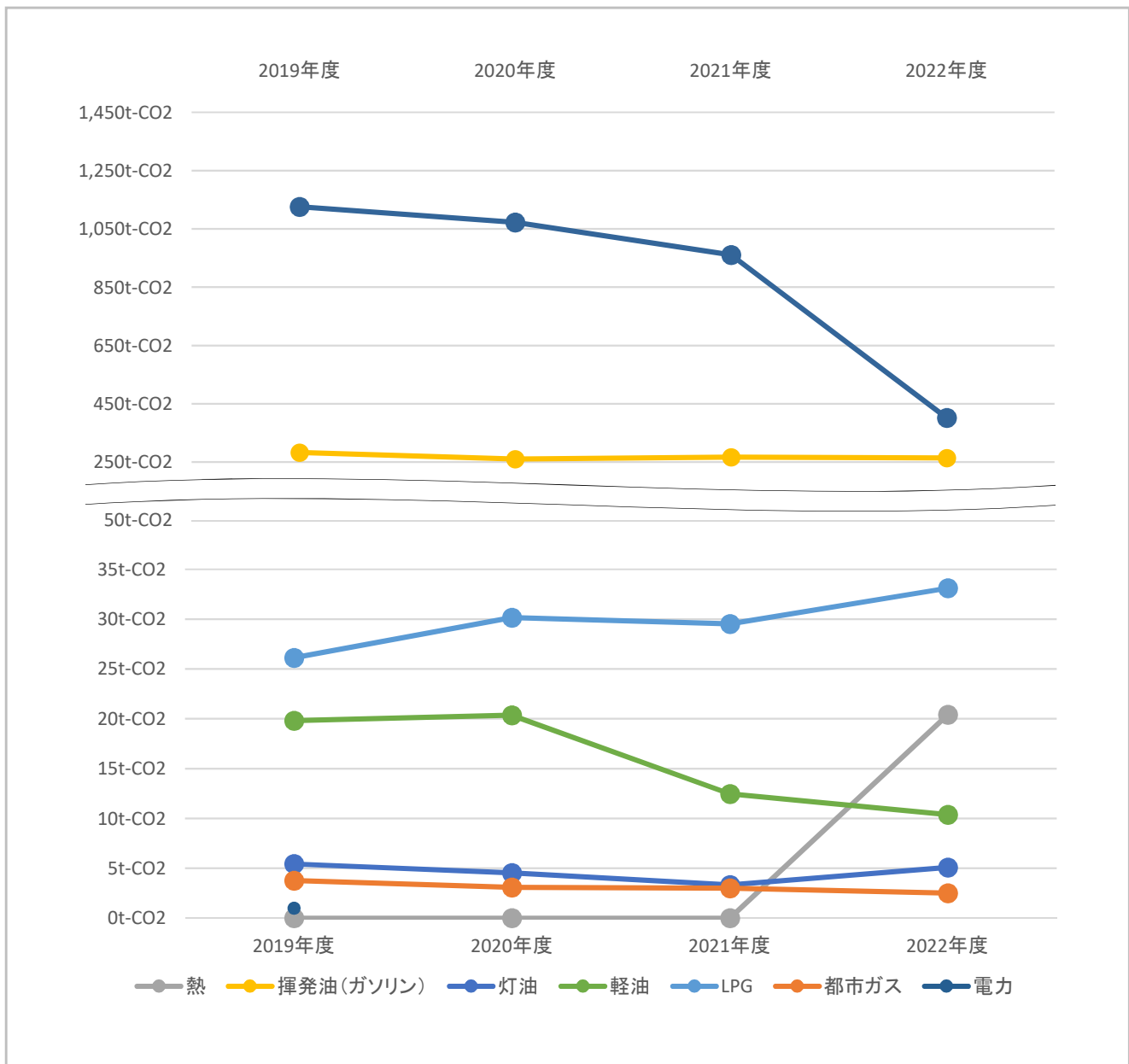
※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による

<施工以外（オフィス等）のCO₂排出量の推移>

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
施工以外のCO ₂ 排出量	1,460t-CO ₂	1,390t-CO ₂	1,280t-CO ₂	740t-CO ₂

国内施工以外(オフィス等)におけるCO₂排出量 <2>

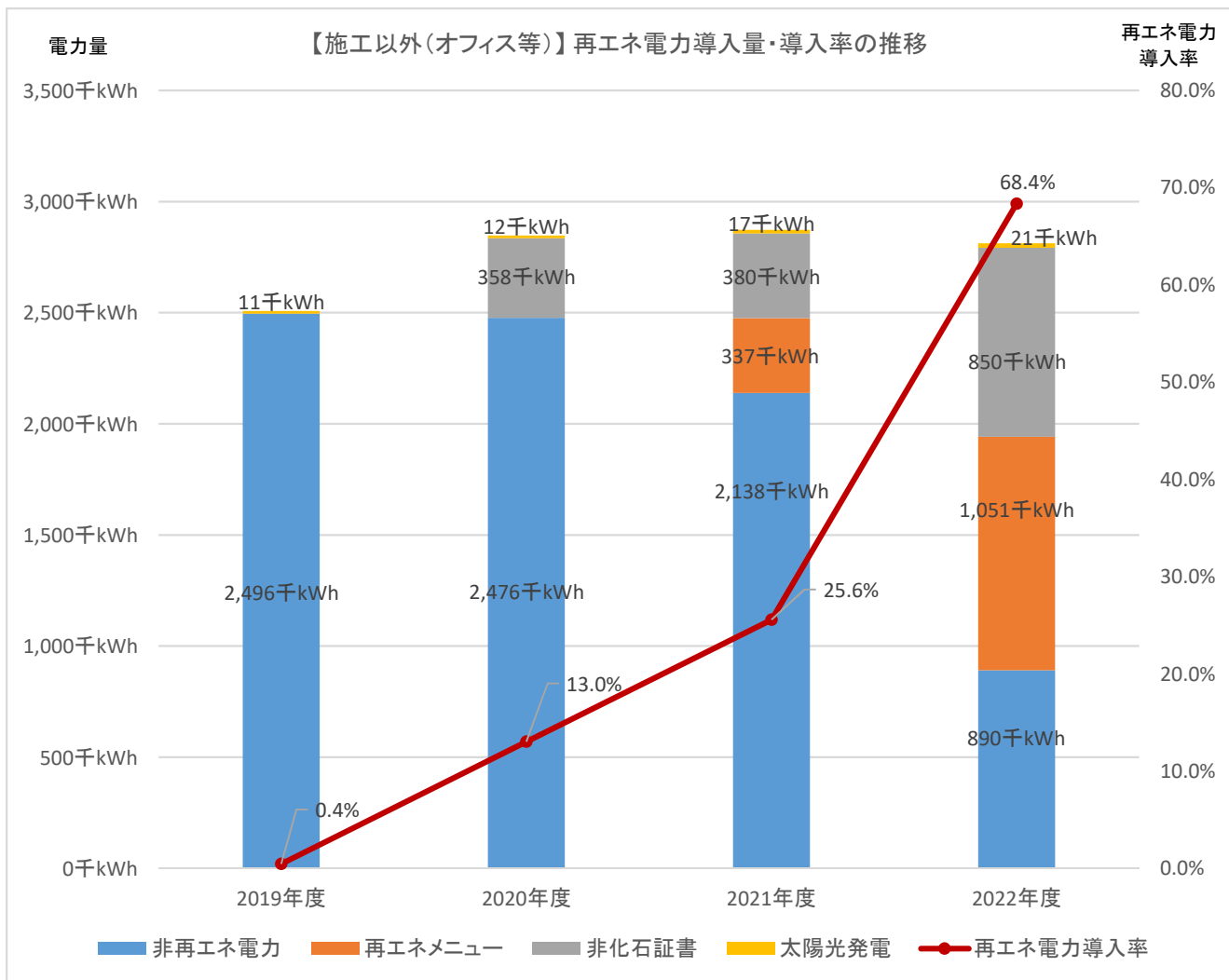
<施工以外(オフィス等)におけるエネルギー別CO₂排出量の推移>



※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による

国内施工以外(オフィス等)におけるCO₂排出量 <3>

<参考：施工以外（オフィス等）における再エネ電力導入量・再エネ電力導入率の推移>



■国内グループ会社のCO₂排出量

2022年4月～2023年3月の西松建設連結子会社のCO₂排出量は以下の通りです。不動産管理、保険代理店業などを行う「西松地所」、植物工場における野菜の生産を行う「サイテックファーム」2社の構成となっています。

< 連結子会社のCO₂排出量 >

	主な事業内容	CO ₂ 排出量	主なCO ₂ 起源
西松地所株式会社	不動産管理、保険代理店業	390t-CO ₂	賃貸不動産、オフィスワークの電力
株式会社サイテックファーム	植物工場における野菜の生産	520t-CO ₂	工場野菜の生育に使用するLED照明の電力

※国内グループ会社のCO₂は事業活動に伴い消費されるエネルギー(電力およびガソリン)に基づく

※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による

■スコープ別CO₂排出量(グループ全体)

2019年度～2022年度の事業活動(グループ全体)に関するスコープ1,2、およびスコープ3(事業の上下流における間接的なCO₂排出量)は以下の通りです。

<スコープ1,2>

スコープ	算定の位置付け	2022年度 実績値 (t-CO ₂)	2019年度 実績値 (t-CO ₂)	2020年度 実績値 (t-CO ₂)	2021年度 実績値 (t-CO ₂)
スコープ1	マーケット基準 (※使用燃料に関して温対法指定のCO ₂ 排出係数を使用)	20,340	31,790	34,350	25,790
スコープ2	マーケット基準 (※使用電力に関して各電力会社公表のCO ₂ 排出係数を使用)	22,690	33,180	35,860	36,850
	合計	43,030	64,970	70,210	62,640

※国内施工のCO₂排出量はサンプリング調査による

<スコープ3>

カテゴリー	算定範囲	2022年度 実績値 (t-CO ₂)	2019年度 実績値 (t-CO ₂)	2020年度 実績値 (t-CO ₂)	2021年度 実績値 (t-CO ₂)
1 購入した製品・サービス	・当社が購入した製品の内、購入量を把握している主要資材(鉄筋、コンクリート、セメント、H型鋼、鋼管杭、鋼矢板、鉄骨、建設用金属製品、セメント製品)の資源採取から製造段階までの排出量	734,500	468,400	582,300	539,400
2 資本財	・当社が購入または取得した資本財の建設・製造および輸送から発生する排出量 (2022年度設備投資総額から推計)	90,200	91,700	63,300	105,900
3 スコープ1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	・当社が購入した電力および燃料の製造過程における上流側の排出量	6,800	4,000	4,200	9,900
4 輸送、配送(上流)	・当社が購入した主要資材の物流(購入元から現場までの輸送)に伴う排出量	25,600	8,400	13,100	26,800
5 事業から出る廃棄物	・当社の事業活動から発生する廃棄物(有償のものを除く)の、自社以外での「廃棄」と「処理」に係る排出量、および廃棄物の輸送に関わる排出量	16,600	22,900	21,200	23,800
6 出張	・当社社員が出張時に使用する交通機関の燃料・電力消費による排出量、宿泊時の燃料・電力消費等による排出量(対象は国内出張のみ)	400	400	400	400
7 雇用者の通勤	・当社社員が、通勤時に使用する交通機関の燃料・電力消費から排出される排出量 (協力会社社員の当社出張所への通勤は含まない)	1,200	1,300	1,300	1,400
11 販売した製品の使用	・当社が施工した建築物の使用に伴う排出量の内、建築設備エネルギーの消費による排出量 (建築物エネルギー消費量調査45報に基づき推計) (算出した建物種別ごとの年間CO ₂ 排出量に建物供用期間を乗じて算出) (建物ごとのBEI、再エネ電力導入状況を考慮)	1,847,600	3,663,700	3,191,800	2,481,200
12 販売した製品の廃棄	・当社が施工した建造物の廃棄や処理に係る排出量(当社が購入した主要資材の物量を「販売した製品」の物量と仮定し、これらが将来廃棄または処理されるものとして算定)	31,500	22,700	29,200	25,500
13 リース資産(下流)	・当社が賃貸事業者として所有し、他者に賃貸しているリース資産(2023年3月末現在)の運用に伴う排出量 (共用部分の排出量はスコープ2となるため、賃貸部分のみの排出量)	22,300	29,700	22,100	23,200
	合計	2,776,700	4,313,200	3,928,900	3,237,500

※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による

■水使用量、建設廃棄物、電子マニフェスト導入率の推移

2019年度～2022年度の事業活動に関する水使用量は以下の通りです。

<水使用量の推移>

水使用量	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
国内施工 水道水	438,760m ³	338,290m ³	309,450m ³	374,300m ³
国内施工 水道水以外	363,010m ³	591,430m ³	319,620m ³	328,620m ³
国内施工 合計	801,770m ³	929,720m ³	629,070m ³	702,920m ³
国内オフィス 水道水	17,470m ³	14,800m ³	13,680m ³	14,920m ³
国内オフィス 水道水以外	20m ³	0m ³	0m ³	0m ³
国内オフィス 合計	17,490m ³	14,800m ³	13,680m ³	14,920m ³
国際施工	101,710m ³	83,760m ³	364,760m ³	372,460m ³
国際オフィス	980m ³	1,030m ³	1,010m ³	1,110m ³
国際 合計	102,690m ³	84,790m ³	365,770m ³	373,570m ³
西松地所	300m ³	370m ³	360m ³	450m ³
サイテックファーム	1,570m ³	3,190m ³	4,620m ³	4,780m ³
関連会社 合計	1,870m ³	3,560m ³	4,980m ³	5,230m ³
水使用量 合計	923,820m³	1,032,870m³	1,013,500m³	1,096,640m³
水道水 合計	560,790m ³	441,440m ³	693,880m ³	768,020m ³
水道水以外 合計	363,030m ³	591,430m ³	319,620m ³	328,620m ³

※国内施工の水使用量はサンプリング調査による

2019年度～2022年度の建設廃棄物排出量、最終埋立処分率は以下の通りです。

<建設廃棄物の推移（国内施工）>

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
建設廃棄物排出量	502,812t	408,718t	508,190t	470,878t
内 有害廃棄物量※1	1,503t	3,372t	31,248t	1,457t
最終埋立処分率※2	2.2%	2.2%	2.4%	2.4%

※1石綿含有建材(廃石綿等を含む)を主体とした廃棄物

なお、2021年度は石綿が含有するトンネル残土が発生したことから数量が増加した

※2建設汚泥を含み有害廃棄物など特殊なものを除く

2019年度～2022年度の電子マニフェスト導入率は以下の通りです。

<電子マニフェスト導入率の推移（国内施工）>

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
電子マニフェスト導入率	100%	100%	100%	100%

独立第三者の保証報告書

2023年7月25日

西松建設株式会社
代表取締役社長 高瀬 伸利 殿

株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島隆史



1.目的

当社は、西松建設株式会社（以下、「会社」という）からの委嘱に基づき、2022年度の国内外グループCO₂排出量（スコープ1）20.3千t-CO₂、（スコープ2 マーケットベース）22.7千t-CO₂、（スコープ3 カテゴリ 1,2,3,4,5,6,7,11,12,13 計）2.78百万t-CO₂e、エネルギー消費量254GWh（以下、総称して「パフォーマンス指標」という）に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、パフォーマンス指標が、会社の定める算定方針に従って算定されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することにある。パフォーマンス指標は会社の責任のもとに算定されており、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2.保証手続

当社は、国際保証業務基準 ISAE3000 ならびに ISAE3410 に準拠して本保証業務を実施した。

当社の実施した保証手続の概要は以下のとおりである。

- ・算定方針について担当者への質問
- ・算定方針の検討
- ・算定方針に従ってパフォーマンス指標が算定されているか、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施

3.結論

当社が実施した保証手続の結果、パフォーマンス指標が会社の定める算定方針に従って算定されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

会社と当社との間に特別な利害関係はない。

以上